

農林水産省食育関係表彰における 「食の循環や環境を意識した食育の推進」に関連する取組

農林水産省で実施した食育関係表彰（平成 29 年度食育活動表彰及び平成 28 年度食育推進ボランティア表彰）の受賞事例のうち、食の循環や環境を意識した食育の推進に関連する 17 の取組は下表のとおり。

＜取組一覧＞

No	表彰 年度	受賞者及び団体	取組概要
1	H29	あぐりちゃれんじ〈北海道教育大学 釧路校〉(北海道)	大学生による地元親子を対象とした栽培・加工体験を通じ、育てる楽しみや食べる喜びを体感する食農共育活動
2	H29	食品ロス削減サークル〈美作大学〉 (岡山県)	大学生による幼稚園児を対象とした食品ロスについての講座、市民を対象とした食品ロス削減料理教室、企業と連携したフードバンク活動
3	H29	NPO 法人 霧島食育研究会 (鹿児島県)	「食を大切に作る文化を霧島に創る」ことを目的に、植え方から食べ方までの一貫した体験活動・情報発信、人材育成を行う食育活動
4	H29	NPO 法人 花と緑のネットワークとよ なか(大阪府)	資源循環堆肥「とよっぴー」の活用による農業体験を通じて、環境に視点を おいた食育活動
5	H29	岸田学園 行田幼稚園 (埼玉県)	園内の子供農園で年間を通じた栽培、調理・加工体験により食への感謝を 育む食育活動
6	H29	西三河農業協同組合 (愛知県)	小・中学生を対象に、JA、地域住民、PTA など地域ぐるみで農業体験や 加工・調理体験を通じて豊かな心を育む食育活動
7	H29	はあとキッチン (埼玉県)	地域の子育て世代を対象に、栽培・収穫体験、弁当づくり、加工食品づく りを通じ、五感をフルに使った体験型食育
8	H29	いばらきコープ生活協同組合 (茨城県)	県内の野菜販売(キッズマルシェ)で地産地消と食への感謝の醸成、「ほ ぺたん食堂」での地域での共食を通じたコミュニケーションの再生
9	H29	株式会社伊賀の里モクモク手づくりフ ァーム(三重県)	農業体験プログラムや調理・加工体験を通じ、食と農への理解を醸成 し、地域振興と活性化を図る食育活動
10	H29	琉球新報社 (沖縄県)	沖縄の豊富な地域資源による農林漁業体験を通じ「長寿沖縄」の知恵を 継承する食育活動と発信力を生かした情報発信
11	H29	富士市食育推進会議 (静岡県富士市)	地場産物や複数領域の人材を活用した食生活改善、食に関する理解や 関心を深めるための地域の特色を活かした食育推進
12	H28	あどぼけの会 (群馬県)	農地管理団体の会による地元の保育園児を対象とした食農体験を通 じ、親子や地域コミュニティの絆を育み、食習慣の基礎を作る食育活動
13	H28	愛媛県立宇和島水産高等学校 (愛媛県)	高校生による幼児・小学生、親子を対象とした魚調理体験、若者の視点 を取り入れた魚食普及の商品開発に取組む活動
14	H28	新居を花いっぱいにする会 (高知県)	地域の小学生を対象に、自然環境や食の重要性に関心を持ってもらうと ともに、地域での食のコミュニケーションを活性化させる食育活動
15	H28	FAS(宮城学院女子大学 (宮城県)	大学生による小学生を対象とした料理教室、地産地消の災害食レシピ の情報発信に取組む活動
16	H28	県立広島大学 ヘルス・ネット (広島県)	大学生による幼児・親子を対象とした料理教室、高校・大学生向けの健 康レシピ開発と情報発信に取組む活動
17	H28	弥生母親クラブ「ほっとまま」 (大分県)	地区内の小学生を対象に、設定した年間テーマに沿って、親子で学ぶ 食育体験



ボランティア部門
《大学等》

消費・安全局長賞

あぐりちゃれんじ 〈北海道教育大学釧路校〉

(北海道) 活動期間 5年

親子の食農体験を通じた行政・教育・市民の連携と人材育成

若い世代を中心とした食育の推進

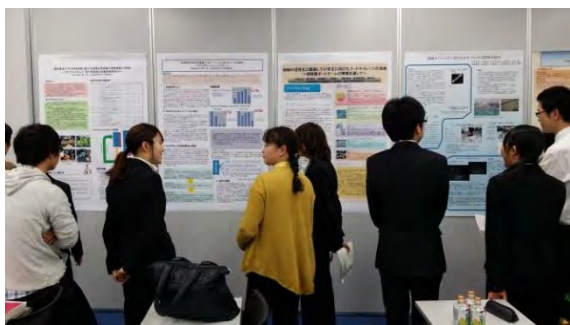
釧路市に住む親子を対象に、大学農場において年間20回の食農体験を実施し、食育や農業への知識・関心を深めるとともに、発達障害をはじめ様々な児童との関わり方を学び、親同士の子育てにおける不安・悩みを共有することで共に育つ機会を作っています。大豆、野菜等の栽培体験、加工体験（味噌づくり、甜菜シロップ・にんじんジャム・トマトピューレ等）を通じ、親子で育てる楽しさや食べる喜びを体感しています。



農体験の様子

教員を目指す学生の人材育成の場

教員を目指す学生にとっては、食育・食農教育実践を通年で展開できる能力の育成に資するものとなっています。講師役の大学生は、日本農業検定2級を取得し、基礎的知識を取得しています。



学会発表の様子

食育を効果的に推進する組織体制

大学と学生と親との三者によって実行委員会を設置し、食農体験の他に、野外教育研究会との野外散策、食物アレルギーや発達障害、アンガーマネジメント等に関する学習会を実施しています。



野外教育研究会連携の様子



保護者意見交換会の様子

食農体験活動ごとに子供の成長が感じられ、毎回元気をもらっています。子供から大人まで、それぞれの悩みを共有したり、のびのびと活動できるよう、今後も多くの意見交換をしながら、活動に取り組んでいきたいと思えます。

あぐりちゃれんじ学生理事

藤田 理紗 (大学4年生)

永楽 智子 (大学4年生)

澤田 加奈 (大学4年生)

藤野 千明 (大学3年生)





ボランティア部門
《大学等》

消費・安全局長賞

食品ロス削減サークル 〈美作大学〉

(岡山県) 活動期間 3.5年

フードドライブ活動を主とした食品ロス削減活動及び食品の有効活用

食の循環や環境を意識した 食育の推進

NPO法人フードバンク岡山と連携し、家庭で余った食料品を必要としている人に贈るフードドライブ活動で寄贈された食品の受け取りや仕分け分配作業を行っています。また、フードバンク活動やフードドライブ活動で寄贈された食品を活用し、「ぼかぼか食堂」や「子ども食堂」を開き、地域の高齢者や子供たちに共食の場を提供し地域づくりに貢献しています。



「ぼかぼか食堂」で近隣の高齢者の方に食品ロスの話とメニューの説明

食品ロス削減の普及

子供たちが楽しく食品ロスの実態や食品ロス削減の大切さを理解できるよう、「食品ロス削減かるた」や「食品ロス削減すごろく」を作成し、エコフェスタや学園祭等イベントで活用し、子供たちや家族連れに親しんでもらっています。メディアで活動を取り上げてもらうなど、食品ロス削減の普及に取り組んでいます。



エコフェスタin津山で参加者が「食品ロス削減かるた」「食品ロス削減すごろく」をしている様子

未来の管理栄養士の養成のために

管理栄養士養成施設である大学として、未来の管理栄養士や栄養士に、食品ロスに対する認識を持ち、将来、地域社会に対して食品ロス削減を指導するキーマンとなって欲しいとの思いで活動を進めています。



白梅祭（美作大学学園祭）での食品ロスとフードバンクのパネル展示



「子ども食堂」で、学生が食事を調理している様子

日本の食品ロスは632万トン。食料自給率は主要国中最低。多くの食料を輸入。近年貧困や格差拡大で生活困窮者増加。食品ロス削減は必須。

将来食の専門家として、食品ロス削減を学生や市民にお伝えしていきます。

食品ロス削減サークル

原田 佳子（顧問）

島田 月帆（部長）

森本 絢音（副部長）

